



第5号
令和4年
9月20日発行

志高く

自ら考え 学び続ける生徒
心豊かで 思いやりのある生徒
体を鍛え やり抜く生徒



「新化するために 本気・全力で挑む」2学期に！

ー “3年ぶりの深中三大行事” **必要な【密】**を通して集団も個も磨くー

石川 浩

未知のコロナ禍の中で2年間諦めざるを得なかった文化発表会・体育祭・音楽会と続く“深中三大行事”を3年ぶりに復活させる。そのために、2年間耐えながら積み重ねてきた経験や知見を活かし、何に気をつけ、どうしていけばよいのかを考え工夫し、改めて我慢もする。…そうした取組をつなぎ、9月2日遂に文化発表会を、そして10日に体育祭を実施することができました。しかし、コロナ禍が収束したわけではないので3年前と同じようにはできませんでした。密集・密接を防ぐため、文化発表会は保護者参観はご遠慮いただき、生徒も体育館に全員集めず吹奏楽部の演奏発表と美術部等の展示発表は2公演制としました。体育祭は、密集・密接を防ぐとともに時間短縮するために種目を工夫しました。また屋外の発表であるので、今年は各生徒につき1・2年生は1名、3年生は2名まで保護者の方々に参観していただけるようにしました。



2学期は現生徒会本部の活動のまとめとなるので、生徒会のスローガンである『**新化**』を目的とした『**新化するために 本気・全力で挑む**』を重点として始業式で全校生徒に示しました。文化発表会にも体育祭にも、生徒たちは**本気・全力**で取り組んでくれました。文化発表会も全校での体育祭も3年ぶりで、今の1・2年生はもちろん3年生にとっても初めての体験でした。ですから、生徒たちは誰も文化発表会でも体育祭でも先輩の姿を見ていません。それでも私は3年生に、「**みんなが考える深中の最上級生としての姿**を2年生・1年生に示してほしい」と檄を飛ばしました。そして「**今年のみんなの姿が、これからの新しい“深中の最上級生の姿”の基盤**となっていくのだから」と励ましました。そんな激励に3年生はよく応え、これから後輩たちが追い求めるべき**深中の最上級生の姿**を**本気・全力**で示してくれました。

今年の夏の甲子園大会。百年以上の歴史上で東北の学校として初めて優勝した仙台育英高校の監督がインタビューの中で「**青春ってすごく密なので**」という言葉を使いました。確かにそうです。振り返ってみると、高校生も中学生も大人が過ごす時間とは全く違う**濃密な時間**を過ごしていると感じます。**青春ってすごく密**なのに、密なことは全部ダメだと言われ、活動しててもどこかでストップがかかってしまうような2年間でした。それでもあきらめず、どうすればできるか・何ができるか…希望や目標を灯し続け前進してきたのです。希望を叶えられなかった先輩たちの姿を見つめ続けてきた今年の生徒たちと先生たちが、今年の状況の中でできることを精一杯具現化してくれたことに、私は胸が熱くなりました。

人は、“密”の中で関係性を深め、特に学生時代の密度の濃さでその後の人生が変わってくると思います。それはコロナ禍であっても変わりません。避けるべきは集団感染防止のために**密閉・密集・密接**という3つの「密」、だけです。「密」の字には「隙間がなく混み合っている」という意味だけでなく、**細やか・行き届いた・詳しい・親しい・奥深くて知りがたい**…といった意味があります。「親密」「緻密」や「密密[努め励むさま]」など、今こそ必要で大切にしたい“密”があります。学校は、“他律による自律の機関”、言葉を換えれば“集団の力を借りて個の力を磨く”ところです。集団の中に入り、**必要な【密】**を通して自分とは異なる他と親しく細やかに触れ磨き合う機会をもち、奥深くて知りがたい真に触れるために努め励む、そんな2学期にしていきたいと思います。

2学期に向けて

渡邊 昂 さん

1年2組



川田 凜華さん

2年2組



齋藤 匠大さん

3年2組



8月29日の2学期始業式の中で、各学年の代表が、1学期と夏休みを振り返るとともに2学期への決意を語ってくれました。その一部を紹介します。

ぼくが2学期に頑張りたいことは、二つあります。

一つ目は勉強です。1学期は、家で授業の復習をして、自分なりに納得のいく結果を残すことができました。しかし、テスト前の勉強が、他の人比べると少なかった気がします。2学期は、どの教科も1学期より難しくなると思うので、まず授業をしっかりと受けること、そしてテスト前の勉強を1学期より早めに始めることで、より高いレベルを目指していきたいです。

二つ目は学校行事です。9月に行われる体育祭がとても楽しみです。小学校の時はコロナ禍のために、学年ブロック別の運動会しかできませんでした。中学校でも学年別の体育祭だったと聞いています。しかし今年は全校そろっての体育祭ができそうです。クラスで一致団結し、また先輩たちと一緒に全力を出して臨める体育祭を楽しんでいきたいです。

2学期は、この二つのことを特に頑張っていきますが、もちろん赤学年で取り組んだ授業に集中することもおそろかにせず、赤学年全員が成長できる2学期にしていきたいです。



39日間という長い夏休みが終わり2学期が始まりました。夏休みに挑戦し学んだことを2学期に活かすために、皆さんはどのような目標を立てましたか。

私の一つ目の目標は、部活動と勉強の文武両道をより実現させることです。私は毎年夏休みの課題を終わらせるために8月後半に苦しむことが多かったです。しかし来年には受験が控えていることを意識し、今年は計画的に夏休みを過ごすことに挑みました。毎日小さな目標を立てそれを達成することで毎日計画的に課題を進め、部活動との両立ができました。

二つ目の目標は、行事を通して協調性や団結力をクラス全員で身に付けることです。2学期には体育祭や音楽会があります。今年は体育祭は全校で、音楽会も行える予定です。行事を行う際に思いどおりに進まないときがあると思います。そんなときには、自分だけでなく相手や周りの友達の考えや想いも聞いたり想像したりして行事の成功に繋がりたいと思っています。

三つ目の目標は生活面です。青学年は、1学期にキャンペーンを通して時間を守る意識を高められました。その意識を2学期も継続するために、呼びかける人を増やし一人一人が時間の意識をもてるようにしていきたいと思います。

一番長い2学期を一人一人が意識とメリハリをつけて充実させましょう。



この夏休みは、計画的に勉強を進め、受験への意識をより高められました。志望校の学校説明会や見学会、部活動体験に進んで参加し、実際に学校の雰囲気や特色を肌で感じることができました。高校生の先輩方の話は、高校生活の魅力が伝わり心躍る思いで聞きました。とても充実した39日間でした。

夏休みが終わりいよいよ2学期が始まりました。最高学年、そして受験生として、2学期に達成すべき目標を三つ考えました。第1の目標は、3年ぶりの深中三大行事を緑学年がリーダーシップをとり成功させることです。昨年一昨年と、体育祭は学年別に縮小され、音楽会と文化発表会が行われず、悔しさとの足りなさを感じてきました。今年はまず行事ができることに感謝し、私たちにとって最初で最後の深中三大行事を全力でやり遂げます。一人一人にとって“最高の思い出”にするため準備や練習から本気で挑んでいきます。全校のリーダーという視点から、第2の目標は、挨拶や返事、姿勢など『構え』をより確かなものにすることにしました。受験や卒業など多くの場面で、“最上級生としての構え”が求められます。まずは三大行事の中で後輩たちにしっかりとした手本を示していきます。第3の目標は、自分が何をすべきかを明確にして計画的に勉強することです。日々の授業、毎回のテストに全力投球し、志望校合格に向けて後悔しないように全力で頑張ります。

卒業まで約二百日。大切な仲間と過ごす深中での日々を有意義にするために、三つの目標をしっかり達成できる2学期にいきます。

学校総合体育大会県大会等

6月に行われた学校総合体育大会地区予選を勝ち抜いた部が、夏休みを中心に開催された県大会に出場しました。また、県大会を勝ち上がり西関東大会に出場する部もあります。



《県大会出場チーム・個人の成績・結果》

【ラグビー】南中学校との合同チームで**準優勝**

【バスケ女子】初戦惜敗



【サッカー】**ベスト16**

【バレー女子】**ベスト16**



【柔道】[男子個人戦] 福島 初戦敗退

[女子団体戦] 初戦敗退



[女子個人戦] 高田結希菜 第3位

巴 ベスト8

荒張 ベスト16



船木・高田弥央・森田・山口羽里華・細野 初戦惜敗



【剣道】[男子個人戦] 倉石 初戦惜敗 【吹奏楽部】マーチングコンテスト銀賞…**西関東大会出場**



【水泳】倉澤 400m 個人メドレー：6位入賞・400m 自由形：予選敗退

毎年9月は『生命』を考える月

今年も『9.11』を迎えました。

今から 21 年前の 2001 年 9 月 11 日に
アメリカ合衆国で同時多発テロが起き、
2,977 名の尊い生命が奪われました。

この時から始まったアフガニスタン紛争において、20 年にわたる武力による制圧が試みられましたが、十分な成果を挙げる事ができないまま 2020 年アメリカ軍は撤退しました。

『9.11』によって明らかにされた様々な対立は、武力では 20 年かけても収束を迎えることはできませんでした。逆に、多くの新たな紛争を世界各地で起こしているのではないかと感じています。この 1 年でも、ロシア軍の突然の侵攻によって、ウクライナで多くの生命とそこで営まれていた平和な日常生活が奪われています。またこの紛争による様々な影響が世界に広がっています。私たちは、歴史から何を学んでいるのでしょうか。武力によらずに紛争を収める手立てを、私たちは考え具現化できないのでしょうか。



2 学期始業式に、『水平線』という歌を紹介し、自分とは異なる正しさの存在や、自分とは異なる他者を認め受け入れ助け合っていく大切さについて、考えてもらいました。力や数によらない問題解決の仕方や自他共に大切にする生き方について、考えるヒントにしてももらえると嬉しいです。

『水平線』 back number

作詞・作曲 清水依与吏

できるだけ嘘はないように どんな時も優しくあれるように
人が痛みを感じたときには 自分のことのように思えるように
正しさを別の正しさで 失くす悲しみにも出会うけれど

水平線が光る朝に あなたの希望が崩れ落ちて 風に飛ばされる欠片に 誰かが綺麗と呟いてる
悲しい声で歌いながら いつしか海に流れ着いて 光って あなたはそれを見るでしょう

自分の背中は見えないのだから 恥ずかしがらずに人に尋ねるといい
心は誰にも見えないのだから 見えるものよりも大事にするといい
毎日が重なることで 会えなくなる人できるけれど

透き通るほど淡い夜に あなたの夢がひとつ叶って 歓声と拍手の中に 誰かの悲鳴が隠れている
耐える理由を探しながら いくつも答えを抱えながら 悩んで あなたは自分を知るでしょう

誰の心に残ることも 目に焼き付くこともない今日も 雑音と足音の奥で 私はここだと叫んでいる
水平線が光る朝に あなたの希望が崩れ落ちて 風に飛ばされる欠片に 誰かが綺麗と呟いてる
悲しい声で歌いながら いつしか海に流れ着いて 光って あなたはそれを見るでしょう
あなたはそれを見るでしょう

※ この曲は、コト禍のために中止となった全国高等学校総合体育大会[インターハイ]を目指していた高校生たちに向けて 2020 年 8 月に作られました。コト禍でたくさんの夢が失われていく中、高校生たちのために何かできないかと考え作られたのだそうです。歌詞の最後のフレーズにある『それ』ってどんなものなのでしょう？

10 年前の 9 月 11 日、**深谷市で起きた交通事故**によって小学校 3 年生の尊い生命が奪われました。その交通事故がなかったら、昨年度の 3 月に深中を卒業し義務教育を終えているはずでした。

一つの生命が失われたことをきっかけに、深谷市の全小学生にヘルメットが贈られるようになりました。今の深中生の皆さんも、贈られたヘルメットをかぶって登下校したはずですが、しかし今年の夏休みに、深谷市内の小学生と中学生が重大な交通事故に遭ってしまったそうです。幸い生命を落とすことはなかったそうですが、ヘルメットをかぶっていなかったために重大事故となってしまったそうです。子供たち一人一人のかけがえのない生命を市をあげて守ろうとしている、その思い・願いを改めて受け止め、皆さん一人一人が一つだけしかない自分の生命を守る使命を果たしていってほしいと思っています。

今年の 9 月も、一人一人を支え輝かせる生命は、エネルギーに溢れるものである一方儚いものであることを改めて皆さんで考える期間にしてください。そして、一人一人に一つだけ預けられている自分の生命も他の人の生命も、慈しみ大切にしていきたいと思います。

